

図書館部報

岡崎市現職研修委員会
学校図書館部
平成30年9月28日
No. 2



本の魅力をどう伝えるか



現職研修委員会学校図書館部部長
常磐東小学校 校長 近藤 嗣郎

先日、学校に本を配達されている書店の店員さんと話をしたとき、彼はこう言いました。

「今は、書店業界はかなり厳しいです。書店に足を運ばず、ネットで本を購入する人が増えてきました。そして、昨年度、漫画単行本は、紙ではなく電子書籍に逆転されました。多くの人が電子書籍で読むように変わったからです。理由は、読んだ本の置き場に困っていること。それに、タブレットが普及し、いつでも本が読める利便性ですね。最近、バスや電車内でも、本を読んでいる人を見かけません。それは、携帯やタブレットからのインターネットで最新の情報を手に入れているからです。」

そんな時代がとうとうきてしまったんだと、私は思いました。

しかし、このような時代の中でも、**本の魅力**を積極的に広めている方々が多くいます。

その1例としてあげるのは、北海道の砂川市にある「いわた書店」です。店長の岩田徹氏は、お客さんの声を参考にして「1万円選書サービス」を始めました。その新サービスがきっかけで、廃業寸前だった本屋を劇的に復活させました。今では全国から本の注文が殺到しているそうです。それは、年齢・家族構成・読書歴などの簡単なアンケートに答えてもらい、岩田氏はその人にあった本を厳選しているそうです。現在では、地域の学校図書館の選書にも携わり、とても忙しくて3000人待ちだそうです。岩田氏は、**本で人を幸せにすることができるはずだ**と信じて、選書しているそうです。

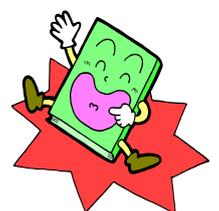
次の例は、**作家の講演**です。8月末に安城市の県図書館研究大会で、児童文学作家の富安陽子氏の講演を聴きました。テーマは「本は不思議の扉」でした。富安氏はこれまで130冊ほど作品を書かれています。いかにして作品ができあがるのかを具体的に話されました。ご自分の生い立ちや絵本作家としてのこれまでの工夫や努力、絵本の見どころや楽しさ等、作品の裏側を述べられました。

「大人よりも子供の方が熱心な読者が多いんです」「作り手と受け手のギャップをなくすようにするため、読者の年齢に応じた言葉で書くようにしています」「いつも見慣れたものの中にお話の種があるので、それを見逃さないようにしています」「思いついたらすぐにメモするようにしています」「話の中にわくわくやどきどきを入れるようにしています」「絵かきの力量も作品の出来を大きく左右するため、文章と絵の足並みが最も大切です」……など、初めて聴くことばかりでした。富安氏は、毎年10冊以上も執筆されていますが、絵本が緻密にできていることを知り、本の魅力を一層感じました。

3つめの例は、読み聞かせ、ブックトークなどの方法で活躍されている方々です。8月の教師力アップセミナーでは、ストーリーテリングをされているボランティア「まほうの豆」の山田さんと曾我さんの話をお聴きしました。ストーリーテリングの特徴は、作品を正確に覚えて聞き手を見ながら、本や絵を見せずにシンプルに語る方法です。作品は、主に昔話、民話、童話、創作物などです。話し手は、表情や話し方、間やテンポ、リズムなどを工夫して、聞き手を魅了します。

講演を聴いて、新任のころを思い出しました。当時、中学生を相手に必死に授業をしていて、生徒の集中力が欠けたころ、学生時代に友人が創作した昔話をしました。その一つが「やまんばとまたぎ」です。中学生には幼い内容でしたが好評で、時間が少し余るとリクエストがあり、その後の授業にもよい影響を与えたと記憶しています。

どのような媒体になろうとも、今後も**本の魅力**を多くの子供たちに伝えたいと思います。



～聞き手の心に勇気や希望を届ける～「ストーリーテリング」 ～授業力・教師力アップセミナー（基礎編）～

8月3日（火）に、授業力・教師力アップセミナー（基礎編）が「りぶら」で行われました。今年度は、40名ほどの先生方が熱心に研修に励みました。

今年度は、楽しみながら、読書に必要な言葉の力・想像力を育てることのできる「ストーリーテリング」について学習しました。「おはなしの森『まほうの豆』」より山田智美様、曾我紀子様を講師としてお迎えし、2学期からの実践に役立つことを数多く教えていただきました。

研修① ストーリーテリングについて学ぼう

講師の先生方より、実際の「語り」を聞かせていただきました。考える力を総動員し、集中して話を聞くことで、自由に想像することができる楽しさを味わいました。語り手が聞き手に楽しませるための工夫や選書の仕方など、今後役立つ内容を学ぶことができました。



＜講師の先生の「語り」を熱心に聞く＞

参加者の声

- ・ ストーリーテリングについて知っていましたが、実践をされている方のお話を聞くことは初めてで、大変興味深いお話を聞くことができました。
- ・ いくつもの話を聞いて、とても楽しく、絵本とは全く違いました。イメージを膨らますことができ、子供たちがストーリーテリングから本（読書）への足掛かりになりそうだと思います。
- ・ 大人でも、語りのプロの話を聞くと、とても引き込まれました。自分も子供の前であのように語ってみたいと思いました。

研修② グループで実践「団子むこ」を語る



＜「ストーリーテリング」に挑戦
和やかな雰囲気で行う参加者の皆さん＞

参加者の先生がグループに分かれて、「ストーリーテリング」に挑戦しました。

お話に対する個々の解釈が、「語り」の調子となって表現され、人それぞれの良さが出て楽しい時間を過ごしました。相手に伝わるようそれぞれ工夫しながら語り、会場は和やかな雰囲気に包まれていました。

参加者の声

- ・ 聞いてみるのとやってみるのとでは大違いでしたが、リーダーの先生が和やかな雰囲気を作ってくれたので、楽しく話し、聞くことができました。子供の前でもやってみます。
- ・ やってみて難しさと良さが分かりました。1つネタをもっておきたいと思いました。

《お知らせ》

◎ 市教研大会の読書・学校図書館分科会の紙面発表において、松本友子先生（大樹寺小）、近藤秀子先生（愛宕小）が、正会員に決まりました。県教研でのご活躍を期待します。